

労働者協同組合における 意見反映とは



三重県鈴鹿市
労働者協同組合コモンウェーブ
代表理事 山浦久美子

2025.1.18 第5回ろうきょうオンラインセミナー

沿 革

2022年10月20日 労働者協同組合コモンウェーブを設立

ひとり親家庭へのアウトリーチ事業(食品訪問配布)で出会ってきた
ひとり親＋困窮＋不登校＋発達障害＋外国籍など
複合的な課題を抱える子どもたちを支援したい

2023年1月 フリースクール併設型の放課後等デイサービスを開設(鈴鹿市長太栄町)

4月 フリースクールを開設(鈴鹿市南若松町)

4月 WAM(独立行政法人福祉医療機構)助成を採択(約700万円)

私設児童館、無料学習塾、中高生の居場所、困窮ひとり親家庭の伴走支援など

2024年4月 WAM(独立行政法人福祉医療機構)助成を採択(約700万円)

小中学生の体験活動、中高生の居場所、ひとり親家庭へのフードパントリー

事業紹介



児童発達支援・放課後等デイサービス サニーぱらす

※放デイ：障がいのある子どもたちに療育を提供する国保事業。非課税世帯は無料で利用可能。送迎サービスもあり

- ・ 定員10名 ひとり親家庭が6割を占める
- ・ SSTや子どもミーティングで話し合いの練習
- ・ 生活支援(掃除・調理)、個別学習
- ・ 田植え・稲刈り、キャンプ、子ども店の運営等、様々な体験活動を実施

子どもたちの社会的自立を支援



フリースクール 子どもの学び舎 ワンダーYOU

- ・ 中学生4名、小学生5名
- ・ 火曜～金曜の10時～15時
- ・ 学習は個別対応
- ・ 調理や運動(卓球・テニス等)、体験活動(畑作業・釣り等)、子どもミーティングを実施
- ・ 小中学校に出席認定

自分らしく生き、人と話し合える人に

地域づくり事業



ティーンズカフェ 軽食付きの中高生の居場所 毎週水曜日18時～20時開催

- 学習支援
小中学生にマンツーマンで個別指導
- わくわく音楽塾
エレキギターやドラムが習える
- eスポーツ
主に不登校の中学生男子が参加
- ボードゲーム部
50種類以上のボードゲームで遊べる

自分らしくいられる居場所づくり



チャレンジキッズ 小3～中学生の体験活動 隔週土曜日開催

- プレーパーク
飯盒炊飯、畑作業、自由遊び
- 体験活動
調理・釣り・登山・棚田での田植え
- ぽかぽか子どもまつり
イベント準備・こども店の店長体験
- 子どもキャンプ
川遊び、テント張り・カレー作り

家庭環境による体験格差をなくしたい

地域づくり事業



子ども地域食堂 ぽかぽかキッチン

第3土曜日16時～19時

親子づれも若者も高齢者も、みんなでわいわい団欒できる多世代交流の場として開催しています。



ひとり親家庭対象 フードパントリー

第3土曜日16時～19時

助成金を得て、45世帯に主にお米4～5キロと野菜を配布

助成金事業としては実施できるのは2025年3月のため、その後が課題

コモンウェーブ組織概略

- ◆事業規模 2022年度売上:1,650万円 2023年度売上:3,560万円
役員長期借入金:460万円
- ◆部門比較(2023年度) 放デイ事業:2,670万円、フリースクール事業:100万円
地域活動事業:654万円、寄付収入:35万円
- ◆出資金 2022年度:24万円 2023年度:67万円
- ◆職員 フルタイム:7名、パートタイム:7名(うち組合員10名)
20代:1名、30代:4名、40代:2名、50代:6名、70代:1名
男性:5名、女性:9名
- ◆ボランティア 定期的な参加者:10名程 11カ月で延べ859名が活動に参加
- ◆ぽかぽかサポーター(月額1,000円~の寄付者) 26名(うち団体1件)

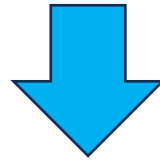
労働者協同組合の基本原則

- 出資（資金を出し合う）
- 協同労働（ともに働く）
- 意見反映（話し合う）

意見反映＝話し合うために必要なことは何か？

意見反映①～初期の失敗から

設立した当初、会議の場で個人批判があり、スタッフが体調を崩す



話し合いのルールを設定

- 否定しない
- さえぎらない
- 折り合いをつける努力をする
- 決まらなければ、次回に持ち越す
- 決めたことを実行する努力をする

意見反映② 情報共有に向けて

1) スタッフミーティングの開催 ※年月を経るにつれ回数が増加

- ①放デイスタッフ ミーティング:毎日1時間+ 週1回2時間
- ②フリースクール スタッフミーティング:週1回1時間
- ③理事会:月1回:1時間半
- ④全体会議(放デイ+フリースクール+地域事業+事務):月1回2時間
各部門の活動報告、事務・経理、活動内容について協議
- ⑤上半期振り返りの会:年1回3時間(計画案の達成状況)
- ⑥総会:年1回3時間(報告書&計画書について協議)

意見反映② 情報共有に向けて

2)新人研修の実施

労働者協同組合の理念や事業内容・方針、話し合いについてレクチャー

⇒目標に向けて共通認識をつくる

3)業務の見える化

全職員が参加するグループラインに代表も含め各自の業務週報をUP

各自が現在取り組んでいる仕事や今後取り組む内容を共有する

⇒自らの振返り & 相互理解を図る

意見反映③ 話し合える関係性をつくる

1)アイスブレイク

週に1回、各事業のミーティングの際にアイスブレイクを実施。

例) ・週末嬉しかった出来事 ・自分のこだわり ・100万円手に入れたら

・私のリラックス法 ・子どもの頃の夏休みの思い出等

⇒価値観、人生観等、お互いのパーソナルな面を知りあうことで、共感や安心が広がる



意見反映③ 話し合える関係性をつくる

2)わくわくミーティング

年に2回、上半期振り返りの会と総会の後に実施(3時間)

個人的な経験や考えをじっくり話し合う機会に

例) ・わたしのトリセツづくり

・ともに生きともに働くとは

⇒話し合うことで勇気づけられる

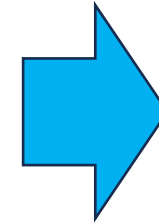
自己を再認識できる

弱みをシェアできる＝人に頼める



わくわくミーティングで挙げられた 「ともに生き、ともに働く」のイメージ

- ・話し合いで折り合いをつけられる関係
- ・自分らしくいられる
- ・苦手なことがあっても気軽に配慮を求められる関係
- ・考えを尊重してもらえる
- ・助け合う、助けてと言える
- ・得意を発揮できる
- ・我慢しなくていい
- ・適度な距離感を保ちながら寄り添う
- ・一緒に成し遂げたときの達成感が感じられる
- ・「働く」だけならロボット、「生きる」があるので人間の心を大切にしたい



相互信頼関係

= 意見反映の
仕組み

= 話し合える
関係性

地域共生社会の実現に向けて

誰かの「困った」をみんなで支える
“おたがいさま”の気持ちで
助け合える地域づくりをめざして

地域の困りごとを解決しながら
自分らしく働ける居場所をつくっていききたい

そのために、
話し合える関係性づくりに
日々取り組んでいます！



子どもたちも「子どもミーティング」で
話し合いの訓練をしています！